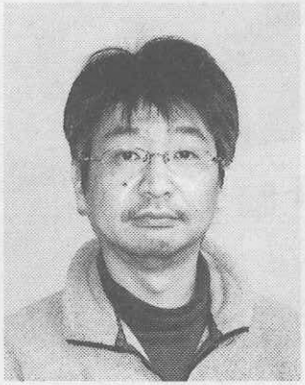
スタディーズ

アトリエの作法

＝2＝

住宅のおもしろさ突き詰める

都市建築設計集団／UAPP　手島 浩之氏



手島氏が仙台市に事務所を開設したのは12年前。出身は岡山県だが、「人が素朴で日本の原風景というイメージに憧れ」、地元の高校から東北大学に進学し、筧和夫教授（当時）に師事した。卒業後は学生時代に1カ月アルバイトを経験した山本理顕設計工場に2年間勤務。その後、仙台に戻り地元設計事務所の手伝いなどを経て、1998年に都市建築設計集団／UAPPを設立した。

設計する際は、師である山本理顕氏の影響もあって、一つの案件につきトータルで「60個から100個は模型を作る」という。手始めはいつも100分の1サイズの街区を含むスタディー模型だ。「これで日照や通風、プライバシーをうまく確保できるかを検討する」

日照、通風、プライバシー

「住宅は、この三つの要素をきっちりとれていなければクライアントは不満に思う」からであり、「この3要素以外に無理に形をいじってもあまり良くならない」との思いもある。

そして、段階ごとに数多くの模型を作っていくプロセスは、「作りながら考える」タイプという建築家としての手島氏にとって不可欠なもの。「合理的に、おもしろくしようとすると、どんどん淘汰されていく」。その作業の繰り返しが、クライアントの満足度と、作品の質の向上につながっている。

住まい方にも気配り

住宅を設計する上で、特に意識するのは〝収納〟。独立後の処女作『八木山の住宅』では、「相当確保したつもりだったが、それでも入りきらなかった」という経験から、「1軒の住宅を成立させるにはかなりの収納がいる」ことを実感した。「片付かなければきれいにならない。維持してもらうにはどう片付けるかが大事」と、住まい方にも気を配っている。

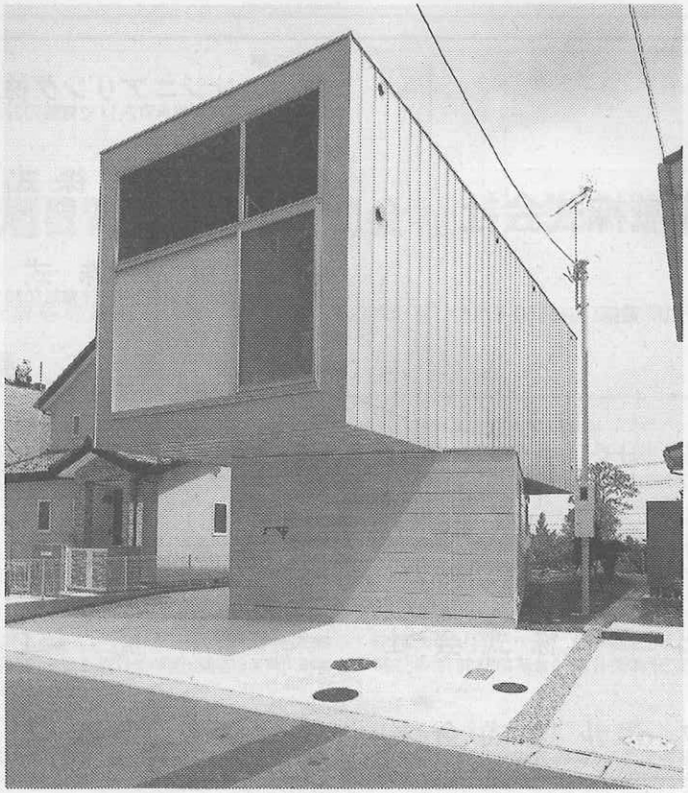
身体にあわせつくる

将来的に、大規模な建築を設計したいという意欲は当然あるが、今は「一人ひとりの身体にあわせてジャストフィットにつくり、触れたり、感じることができる住宅のおもしろさを突き詰めていきたい」と、人の暮らしに直接かかわる住宅づくりに注力している。

そうした思いの結晶の一つである、近作『囲い庭に埋もれる平屋』は、日本建築家協会東北支部主催の第4回東北住宅大賞を受賞した。ここでのコンセプトは「庭と住む人の距離をできるだけ近くすること」。身体と住まいとのかかわりを追求する、この人らしい発想が評価された。

〝走りながら〟作品を生み出すタイプだけに、仕事もついつい根を詰めてしまうことが多かったようだが、現在は、4人のスタッフに対する信頼と健康への配慮もあって、マイペースを心がけている。「チームとしても成長していきたい」と、事務所としての将来を見据えている。

八木山本町の住宅



〈事務所プロフィール〉
▽主宰者＝手島浩之氏
▽所在地＝仙台市青葉区一番町1－15－38　小林ビル
▽電話＝022－217－2515
▽ファクス＝022－217－2516